

# 西原新聞

第2号

平成23年12月4日(日)

【編集発行】  
MUPP西原新聞編集室  
【事務局】  
ラジオ3 FM76.2  
TEL 022-213-2323  
FAX 022-213-1123  
メール 762@radio3.jp

## 「野菜作りをしています！」

### 農業復活の第一歩はここから

中野西原の土地で野菜作り  
り壊しました。  
をしている太田喜一さん。三月  
その敷地に野菜作りを始めたの  
十一日の震災による津波で二階  
は震災から約一ヶ月過ぎた頃で  
建ての家は一階を波がかぶり、  
す。趣味の山野草も失くし喪失  
住む事を断念し、早くに家を取  
状態だった状況の中、ただひた



すら瓦礫の撤去や石を取り除  
く作業をして、夏の暑い時期に  
は具合が悪くなりました。

もともと二〇〇坪ある敷地  
の一角に畑を作っていたので、そ  
こに植えたナス・ピーマン・トマ  
ト・キュウリ・ネギなどの野菜は  
それなりに収穫する事が出来  
ました。

でも家が建っていた所の土は  
肥料がないので野菜の生育が  
悪く、今も石を取り除きながら  
作業しています。

水は幸い近所で出る所があ  
り、そこからポリタンクで運ぶ  
事が出来、今はお隣から貰って  
います。

太田さんは山野草のお仲間、  
たくさんの方からご支援いた  
さ<sup>感謝</sup>きともされてきました。

それで今作っている野菜はお  
世話になった方や、知人の方々  
に差し上げています。みんな喜  
んでくれるのが嬉しいと言われ  
た太田さん。

皆さん、太田さんの新鮮な野  
菜を美味しくいただき、笑顔と  
元氣もいただいております。

## 「日米サクラの女王が仮設訪問

### 心を通わせたひととき



十月七日(月)午後二時、全米  
てくれました。住民の一人一人に  
サクラの女王と日本のサクラの  
カサブランカ(ユリ)の花をプレ  
ゼントしてくれてチョコレート  
とバッチもお土産にいただきま  
した。

県庁訪問や榴ヶ岡公園での  
サクラの植樹と忙しい時間の中  
を大震災のために仮設で暮ら  
す私達を励ましたいという思い  
で訪ねてくれたのだと思います  
スピーチの途中涙を流し、声  
をふるわせているのを見て、大  
変感動しました。言葉はわから  
なくとも、思いはしっかりと伝  
わりました。大輪のみごとな花  
は二週間も咲き続けました

西原新聞第一号を読んだ町内の  
皆さんからお便りを頂きました  
みなさんありがとうございました！  
第一号！とても興味深く読ませて  
いただきました。民間借り上げのア  
パート住まいなので、なつかしい皆  
さんの様子が新聞を通して身近に  
感じられるのがうれしいです。

被災から半年間はあまりにも突  
然の出来事に、わかっていながら  
なかなか現実を受け入れられない  
自分がいまいました。月一回の町内の集  
まりの中で、少しずつ、少しずつな  
すべきことが整理できてきたよう  
に思えます。

月一回の集会の報告内容を新聞に  
載せてほしいです。

## 「母親からの視線で思う事」

### ～子どもたちの現状はどうですか～

西原新聞記者が子供を持つ母に現状を聞いてきました。  
皆さんのご家庭の様子はどうか、ぜひ聞かせて下さい。

「以前は和田新田のアパートに居ました。震災当日は三才  
の娘を連れてたまたま鶴ヶ谷の実家に行っていたので難を逃  
れました。そのまま実家に三ヶ月ほど滞在していましたが、娘  
はなぜアパートに戻らないのか不思議に思ったようなので、  
片付けの終わったアパートを見せて説明したら、津波で壊れて  
しまったと納得したようでした。

仮設住宅ではやはり音に気を使います。以前はしていた遊  
びでも制限してしまうことが多くなりました。一日一回は外に  
出て、公園などで思い切り体を動かすようにしています。

娘もここでの生活は慣れてきたようですが、周りに同年代  
の友達がいないので、一人でつまらない時もあるようです。  
来年は幼稚園なので友達をたくさん作って、遊んでほしいと  
思います。」

とてもよく出来ましたね。旅行  
の写真もよく写って居ります。西  
原より別れて暮らしておりますの  
で初めは淋しかったです。多賀城  
山王に来た時は淋しかったです、  
今はお茶のみばあちゃん三人居  
るので毎日、日が短く感じ暮ら  
して居ります。

西原の地区にも居たいのですが、  
また津波が来るようでは戻りたくあ  
りません。家もなく海が見えるので  
二度と行きたくありません。生まれ  
故郷ですが、とても悲しいです。

編集発行までの役員さん方々、本  
当に有難うございます。西原集会所  
の表札懐かしいですね。

### 「西原町内から他地区に移転した方の声」

～仮設住宅以外の場所で暮らしている西原町内会の皆さんの声を編集員が集めてきました。このコーナーは毎号続けていきたいと思ひます。ぜひお便りをお寄せ下さい。～  
聞きて 下山栄子

#### 平山正己さんの感想

今の生活には大分慣れましたが、青葉区宮城台ですの買物には不便だそうです。  
娘さん親子と自分の五人の家族で暮らして日中は週二回グランドゴルフを楽しんでいます。又隣近所とのつきあいは全然なく西原が恋しいと言っていました。

#### 田耕せい子さんの感想

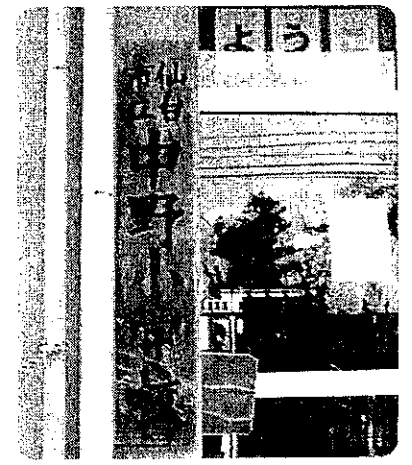
今の生活には慣れましたが港南住宅は買物には不便だそうです。  
主人、自分、娘、孫二人の五人家族で暮らしています。日中はテレビを見たり、たまに病院に行ったり、午後からは散歩を毎日しているそうです。  
隣近所との付き合いは全然ないそうです。  
やはり田耕さんも西原が恋しいと言っていました。

### 小学校の様子、子供たちの姿を覗いてきました。

学校は、子どもたちは今どうなっているんだろう？  
今回は中野小学校に伺って様子取材してきました。



▶現在、中野小学校は中野栄小学校のなかにあります。  
一階、南側の玄関に震災を乗り越えた木製の学校名表札が、掲げられています。  
▲十一月十一日(金)五年、六年の学年行事がありました。  
(株)ホットランド「築地 銀だこ」様の好意で「親子でたこ焼き作り」が行われました。子供達も父兄もアツアツのたこ焼きに、ホットする時間でした。



### 「仮設住宅での節約術」

～不便なことが何かとおおい仮設住宅での生活ですが、こんなアイデアでちよつとだけ快適になれます。ぜひ皆さんの快適生活術を教えてください～

#### お風呂編

- お湯の上にアルミシートをのせ、冷めないようにする
- 一番目の人はお湯を少なめに入れ、次の人は栓を抜き少しお湯を流し、熱いお湯をたす
- アルミシートを体にかぶせ、保湿効果を高める
- 体を浴用タオルで拭き、それからバスタオルを使うと体の乾きが早くバスタオルもぬれない
- 夏場は換気扇を回し、浴室内をタオルで拭き、カビの発生を防ぐ
- ペットボトルにお湯を入れ水かさをおさる

### 『ボランティアに感謝、そして感謝』

～ボランティアさんとの交流の中で、家の一部解体のため行政ではやっていただくことができないので、ボランティアにお願いすることにしました。  
東京から日曜日の都合をみて来ていただいています。

工務店の社長をしている方が、ボランティアを募って来ています。そのボランティアの一人の方が「東京のほうでは、震災があったことが人々の気持ちから薄れてきている。私は忘れていけないことなんだと自分に言い聞かせるため、毎週ボランティアに来ています。」  
この話しを聞いた時、思わず熱いものが込み上げてきました。たぶん、仙台の街の中でも同じではないでしょうか？  
この温度差が少しでも緩和されるなら、復興ももっと早くできるのではないのでしょうか。  
貴重な休日を本当にありがとうございます。  
ボランティアさんに感謝します。

「みんな笑顔でつながろう おとなも子どももみんな一緒に」  
一〇・〇〇・一三・三〇〇

### 西原作品展

このコーナーでは西原町内会のみなさんの作品を紹介しています。イラスト、写真、川柳、書道など何でもOKです。ぜひ編集室までお寄せください。



題「笑顔」 高砂中学校三年生 西原町内会 佐々木美保さんの作品

中野小学校の取材を通し、子供達には今後も楽しくやってほしいと感じました。  
被災小学校の存続の事が、心配です。  
西原のみなさん、いつも笑顔をお忘れず、二日大切に過ごしてください。  
皆さんの笑顔を見ると、私もますますスマイルになります。  
●武内 利子  
●直井 幸江  
●川下加寿子  
●鈴木百合子  
●伊藤 光子  
●山下 栄子  
●熊谷 綾子  
●大和田 美知子

#### 編集委員の近況報告



近頃つると松ぼっくりを見つけたので、クリスマスリースを作っている所です。  
寒さが身にしみるようになりましたが、風邪をひかないよう頑張っています。  
●川下加寿子  
●鈴木百合子  
●伊藤 光子  
●山下 栄子  
●熊谷 綾子  
●大和田 美知子